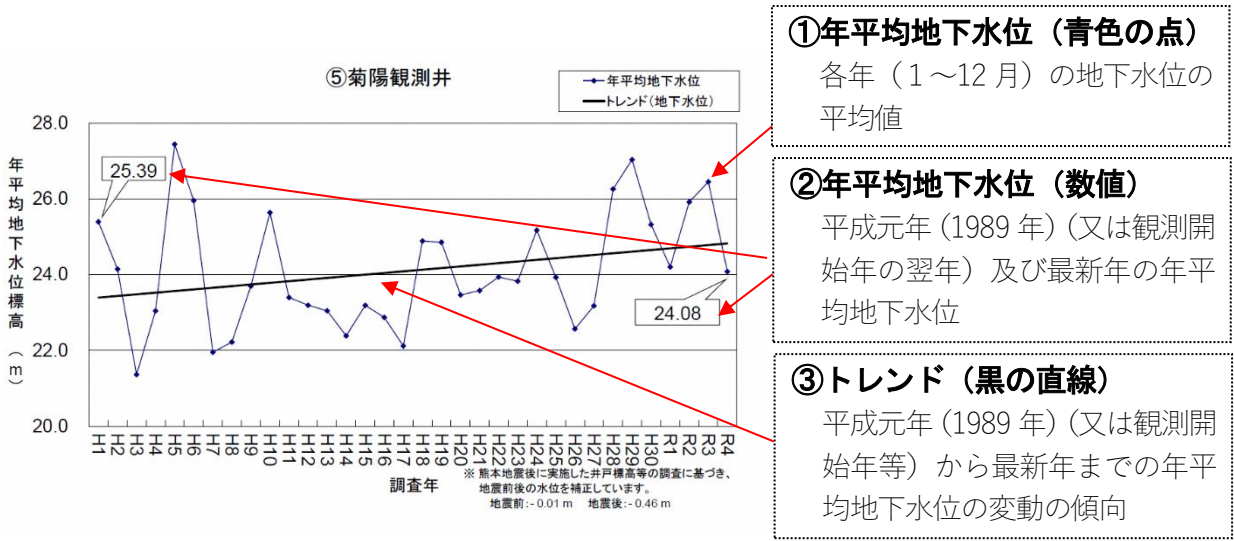


# 熊本県の地下水位観測結果について

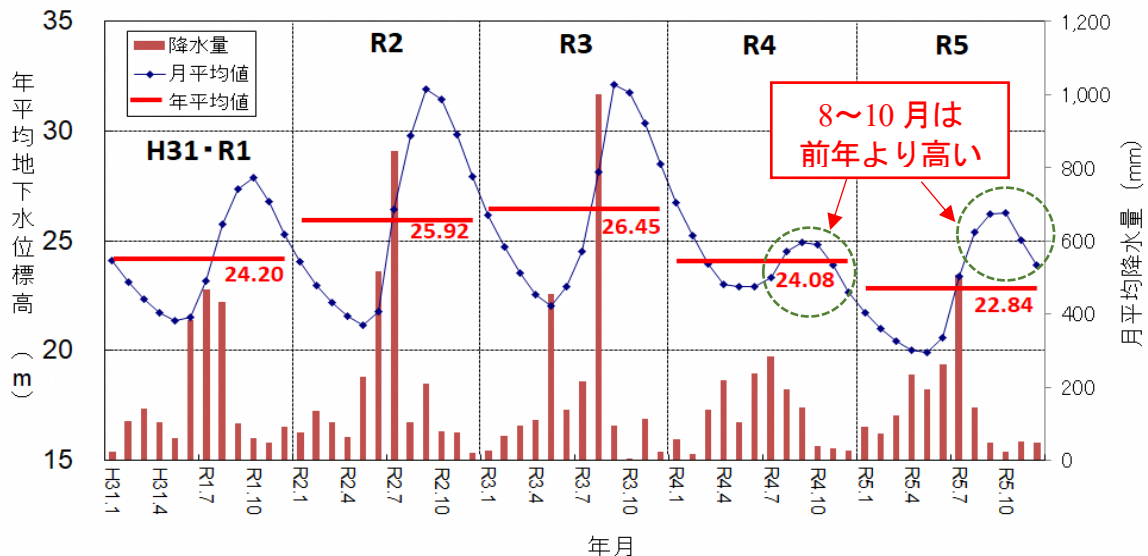
## 1 グラフの見方



## 2 令和5年（2023年）の地下水位

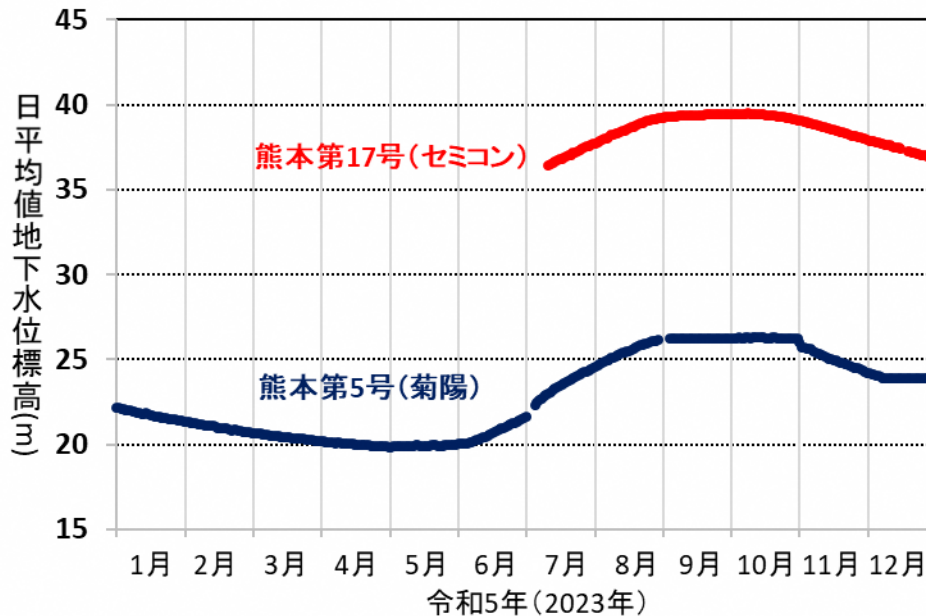
- ・ 県が設置している県内 33 か所（令和5年（2023年）時点）の地下水位観測井において、令和5年（2023年）の地下水位が2年連続で前年より低下した観測井は約半数の16ヶ所となりました。これは、令和4年（2022年）の降水量が少なく、令和5年（2023年）の梅雨前まで地下水位の低下傾向が続いた影響によるものと考えられます。一方で、令和4年（2022年）に地下水位が前年より低下していたものの、令和5年（2023年）には前年より上昇した観測井は全体の約3割の9ヶ所となるなど、回復の兆しも見られています。
- ・ 下図菊陽観測井の観測結果のとおり、令和5年（2023年）1～6月は前年の少雨の影響により地下水位が低かったものの、7月以降は梅雨の降水の影響により地下水位は回復し、令和5年（2023年）8月以降は前年同月よりも地下水位が高い状況が続いています。

（菊陽観測井の地下水位の月平均値の水位）



- 県では、令和5年（2023年）7月にセミコンテクノパーク周辺に新たに観測井（熊本第17号（セミコン））を設置し、地下水位の観測を開始しました。熊本第17号（セミコン）の地下水位は熊本第5号（菊陽）と同じような挙動を示しており、異常等は確認されていません。

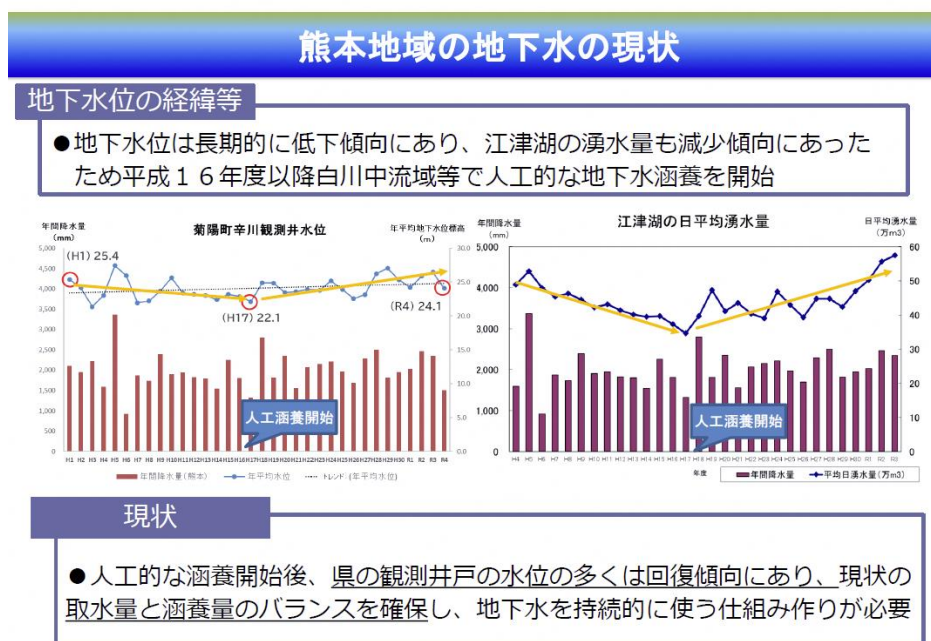
（熊本第17号（セミコン）及び熊本第5号（菊陽）の地下水位（日平均値））



### 3 動画配信サービス等で発信された情報について

令和5年9月定例議会経済環境常任委員会の報告資料(地下水保全の取組みについて)で示した地下水位のグラフについて、一部の動画配信サービスで情報が発信され、県民の方からも指摘が寄せられました。

(令和5年度9月議会常任委員会で示した資料)



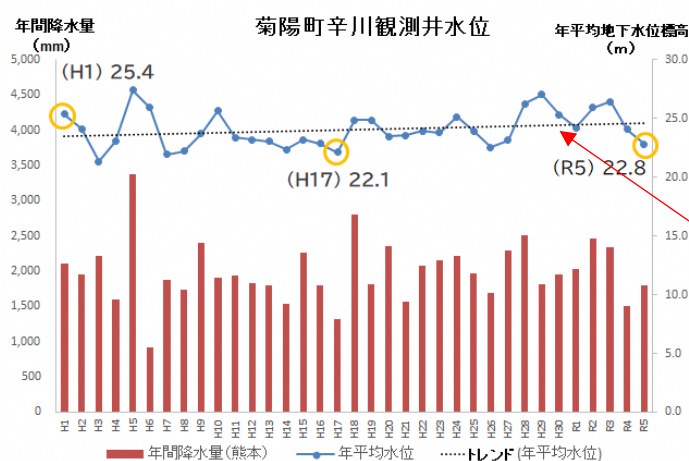
県へ寄せられた主な指摘とそれに対する解説は次のとおりです。

(Q 1) 地下水位は平成元年より最新年の方が低いのに、上昇しているような直線（トレンド）はおかしいのではないか。

(A 1) ・地下水位は降水の状況等により毎年大きく変動するため、特定年のみの地下水位を比較して全体的な増減の傾向を判断することは適切ではありません。

- ・トレンド（グラフ中の直線）は、最小二乗法による近似直線（回帰直線）を示しており、全ての点の真ん中を通る（誤差が少なくなる）線を描くことで、変動の傾向を客観的に視覚化したものです（下図参照）。
- ・回帰直線の詳細については、総務省統計局ホームページ（なるほど統計学園）を参照してください。

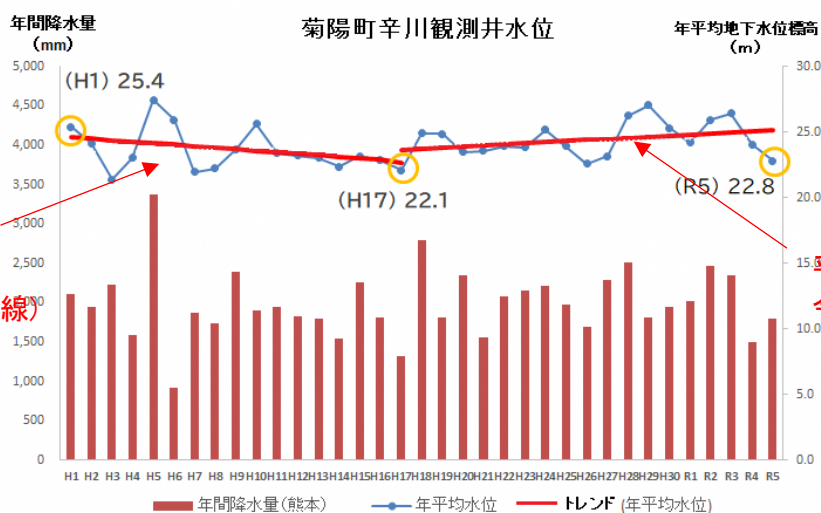
[https://www.stat.go.jp/naruhodo/10\\_tokucho/hukusu.html#top](https://www.stat.go.jp/naruhodo/10_tokucho/hukusu.html#top)



平成元年から令和5年  
までのトレンド  
(回帰直線)

(Q 2) 地下水位が平成17年まで減少し、平成17年以降上昇しているような矢印を入れるのは印象操作であり、統計学的におかしいのではないか。

(A 2) ・菊陽町辛川の地下水位を平成17年までと平成17年以降に分けてトレンド（回帰直線）を記載すると下図のとおりであり、統計学的にも地下水位は平成17年まで減少し、平成17年以降上昇している傾向が認められます。



平成元年から  
平成17年までの  
トレンド (回帰直線)

平成17年から  
令和5年までの  
トレンド (回帰直線)

**(Q 3) 菊陽町では地下水位の低下により枯渇した井戸があり、水が取水できていない状況であるのに地下水位が回復しているという説明はおかしいのではないか。**

**(A 3)**・井戸内に地下水があっても取水できないことがあります。井戸の取水障害の多くは経年劣化による揚水機（ポンプ）の故障やストレーナー（井戸の水の取り入れ口）の目詰まりによるもので、必ずしも地下水位の低下が原因とは限りません。原因究明のためには、地下水位の測定や水中カメラによる井戸内の確認が必要です。

・取水できない原因が揚水機（ポンプ）の故障やストレーナーの目詰まりの場合は、揚水機（ポンプ）の交換や井戸内の洗浄により再び取水できる場合があります。